



1. 本県を取り巻く状況

- 在留外国人の増加に伴って外国人児童生徒も増加
(下表:公立小・中・高等学校〔仙台市を含む〕学校基本調査より)

R1	R2	R3	R4	R5
239人	282人	379人	395人	449人



- 外国人児童生徒は各市町村に点在し、
多国籍化・多言語化

2. 事業の概要

外国人児童生徒等への教育支援の充実を図る

- 県内の外国人児童生徒等の学習支援や学校支援
- 外国人児童生徒等の支援・指導に関わる担当教員等の資質向上

3. 事業の具体

市町村教育委員会・県立学校



- 特別の教育課程の編成
- 在籍学級での学習指導
- 別室での日本語指導
- 児童生徒の心のケア
- 保護者との連絡・面談等
- 日本語指導担当教員の指導面・メンタル面でのサポート など

派遣依頼
派遣

宮城県国際化協会（MIA）

- 学校へのアドバイザー派遣
- 児童生徒へのサポーター派遣
- 授業時間外のオンライン学習支援
- 保護者とのやり取りの支援



宮城県教育委員会

- 事業の企画・運営
- 外国人児童生徒等の支援に関する研修会の開催（大学教授等による講演・研修）
- 連絡会議の開催

4. 学校現場の困り感に応じた事業の活用例



- ★ 特別の教育課程の編成のポイントが分からぬ…
- ★ 日本語指導といつても、言葉が通じない…

→ 特別の教育課程編成や、児童生徒の母語が話せなくともできる日本語指導について、アドバイザーが具体的に助言

- ★ 各教科の授業の中では、日本語指導はなかなかできない…
- ★ 日本語の能力がさまざまで、一斉指導ができない…

→ 加配教員と一緒に、サポーターが別室で個別指導

- ★ 保護者との意思疎通が難しい…

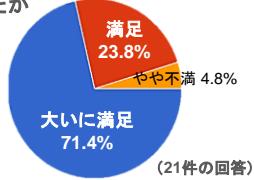
→ 面談の日など、サポーターが会話を支援



5. 本事業を活用した学校の声

※本事業事後アンケート調査結果より（R5.3月 県調査）

- ① 本事業を活用してみていかがでしたか



- ③ ※自由記述欄より

生徒の理解度が大きく向上してきた

日本語能力について客観的に知ることができた
どこに困難を抱えているのか、生徒の困り感に気付くことができた

生徒が生き生きと学習に取り組むことができた

アドバイザーの助言で生徒の特性等に気付くことができた

外国人生徒が安心して過ごすことができている

生徒を多面的に受容することができるようになった

担任とサポーターがどのように連携すればよいか具体的に分かった

職員の不安や負担が軽減された

- ② 次年度も本事業を活用したいと感じますか



6. 今後の見通し

